



2018年11月9日  
東日本旅客鉄道株式会社  
八王子支社

## 降雪時の安定輸送の確保に向けた取組みについて

- JR東日本八王子支社では、2014年2月の豪雪を教訓としたそれまでの雪害への対策に加え、2015年より降雪時の安定輸送の確保に向けたさらなる取組みを進めています。
- 今年度も降雪シーズンを前に、倒木・倒竹対策や駅社員・乗務員・メンテナンス社員を中心として訓練を実施し、降雪時の安定輸送の確保に努めてまいります。

### 1. 倒木・倒竹の対策強化

#### (1) 計画的な沿線樹木の伐採

倒木・倒竹による輸送障害を防止するため、これまで同様に計画的な沿線樹木の伐採を行います。

#### 【主な線区における伐採実績と計画】

線区	2015年度～2017年度	2018年度計画
中央本線	約 7,360 本	約 320 本
青梅線	約 510 本	約 200 本
八高線	約 430 本	約 1,200 本
五日市線	約 80 本	約 50 本

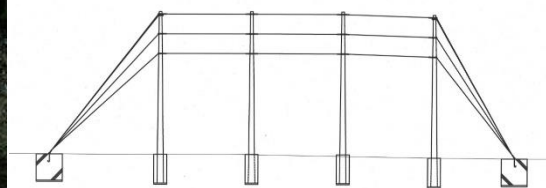
#### (2) ストッパーワイヤーの整備

中央本線の高尾～小淵沢駅間沿線に倒竹対策としてストッパーワイヤーを増備します。

線区	2015年度～2017年度	2018年度計画
中央本線	20箇所	1箇所
五日市線	1箇所	なし



ストッパーワイヤー（イメージ）



ストッパーワイヤー（概略図）

## 2. 沿線監視カメラの増設

中央本線の高尾～小淵沢駅の無人駅と交通量の多い踏切等を中心に設置済みの沿線監視カメラを中央本線・青梅線・五日市線・八高線の主な駅等へ15台増設置し、降積雪状況の把握をします。



電気融雪器（イメージ）

## 3. ポイント不転換防止に向けた電気融雪器・ガス融雪器の増設

相模湖駅に電気融雪器4台、高麗川駅にガス融雪装置3台を増設します。

※八王子支社管内は2017年度までに電気融雪器564台を41駅等に整備済み、ガス融雪器62台を18駅に整備済み。

## 4. 除雪用機器の配備

降雪時に、ホーム等を除雪用機器で除雪を行うことで、お客さまのご不便を少しでも軽減する目的で配備します。

※八王子支社管内の46駅に59台配備済み。



除雪用機器（イメージ）

## 5. 社員訓練の実施

### (1) 運転士によるパンタグラフの除雪訓練の実施

パンタグラフへの積雪による重みの影響で、パンタグラフの降下を防止するために、運転士が除雪棒を用いてパンタグラフの除雪を行う訓練を実施します。

※豊田車両センターではパンタグラフのモックアップを用いたパンタグラフの除雪訓練を実施しております。



パンタグラフ除雪訓練の様子

### (2) 除雪機械「MCR(モーターカー・ロータリー)」の走行訓練の実施

レールの上に30cm以上の積雪があった場合に、列車の運転を見合わせる事があります。その際に、線路上の除雪を行うことを目的として初狩駅、酒折駅、小淵沢駅構内にMCRを3台配備し、MCRを実際に走行させる訓練を実施します。



MCR（イメージ）

### (3) 企画部門社員を対象とした雪害対応訓練の実施

企画部門社員が駅等の除雪、ポイント不転換時の対応を可能とするための訓練を実施します。